

平成 30 年 度

佐 賀 大 学  
入 学 者 選 拔 要 項  
( 抜 粹 版 )

Ⅲ 募 集 人 員  
Ⅳ 出 願 資 格  
Ⅴ 選 拔 方 法

### Ⅲ 募集人員

募集人員等 学部、学科・課程等名			入学 定員	募 集 人 員							備 考	
				一般入試		特 別 入 試						
				前期 日程	後期 日程	推薦入試Ⅰ (大学入試セン ター試験を課さない)	推薦入試Ⅱ (大学入試 センター試験を課す)	AO 入試	佐賀県 推薦入学	帰国 子女		社会人
教育学部	幼小連携 教育コース	幼小発達教育専攻	25	15	5	-	-	-	-	-	○初等教育主免専攻の推薦入試にお ける募集人員5人は、佐賀県枠で 募集します。 ○幼小連携教育コース（推薦入試は 除きます。）は、入学後それぞ れの専攻に分かれます。	
		特別支援教育専攻				5						
	小中連携 教育コース	初等教育主免専攻	70	43	12	5	-	10	-	-		-
		中等教育主免専攻	25	12	5	-	-	8	-	-		-
小			120	70	22	10	-	18	-	-	-	
芸術地域 デザイン 学部	芸術表現 コース	美術・工芸分野	55	30	10	-	-	5	-	-	○芸術表現コース（一般入試）及び 地域デザインコースは、入学して 1年後にそれぞれの分野に分かれ ます。 ○芸術表現コース（特別入試）は、 入学して1年後に出願時に選択し た分野に分かれます。	
		有田セラミック分野				5						
	地域 デザイン コース	地域コンテンツデザイン分野	55	25	15	-	-	15	-	-		-
		キュレーション分野				5						
小			110	55	25	5	-	25	-	-	-	
経済学部	経済学		110	70	20	20	-	-	-	-	-	○一般入試は、3学科の中から順位 を付けて第3志望まで志望できま す。
	経営学		80	30	20	30	-	-	-	-	-	
	経済法学		70	35	25	10	-	-	-	-	-	
	小			260	135	65	60	-	-	-	-	
医学部	医学		*106	50	10	-	**44	-	2	若干人	-	○医学科の推薦入試における募集人 員44人は、一般枠20人、佐賀県枠 23人、長崎県枠1人とします。 ○看護学科の推薦入試における募集 人員20人には、専門系の科及び総 合学科からの募集を含みます。
	看護学		60	35	5	20	-	-	-	-	若干人	
	小			166	85	15	20	44	2	-	-	
理工学部	数理学		30	24	6	-	-	-	-	-	-	○一般入試（前期日程）は、7学科 の中から順位を付けて第2志望ま で志望できます。 ○機能物質化学科は、入学して1年 後にそれぞれのコースに分かれま す。 ○都市工学科は、入学して1年半後 にそれぞれのコースに分かれます。
	物理学		40	30	8	-	2	-	-	-	-	
	知能情報システム		60	45	10	2	3	-	-	-	-	
	機能物質 化学科	物質化学コース	90	62	16	2	10	-	-	-	-	
		機能材料化学コース										
	機械システム		90	58	17	5	10	-	-	-	各学科 若干人	
	電気電子		90	60	22	4	4	-	-	-	-	
	都市 工学科	都市環境基盤コース	90	61	15	4	10	-	-	-	-	
建築・都市デザインコース												
小			490	340	94	17	39	-	-	-		
農学部	応用生物		45	25	10	10	-	-	-	-	-	○一般入試は、3学科の中から順位 を付けて第2志望まで志望できま す。 ○生物環境科学科は、入学して1年 後にそれぞれのコースに分かれま す。
	生物環境 科学科	生物環境保全学コース	60	30	15	15	-	-	-	-	-	
		資源循環生産学コース										
	地域社会開発		40	30	5	5	-	-	-	-	-	
小			145	85	30	30	-	-	-	-	-	
合 計			1,291	770	251	142	83	43	2	-	-	

（備考）推薦入試Ⅰ、佐賀県推薦入学特別入試及び教育学部のAO入試の合格者（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の前期日程の合格者で補充します。また、推薦入試Ⅱの医学部医学科については、一般入試の後期日程の合格者で補充します。AO入試の芸術地域デザイン学部及び推薦入試Ⅱの理工学部については、一般入試の合格者で補充します。

後期日程の募集人員には、帰国子女特別入試及び社会人特別入試の募集人員（若干人）を含みます。

\* 医学部医学科の入学定員106人には「緊急医師確保対策」に基づく暫定措置（臨時定員増2人）の延長が認可された場合の人数を含むものであり、現時点において確定した人数ではありません。

\*\* 医学科の推薦入試Ⅱ佐賀県枠には「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれ、長崎県枠には「長崎県医学修学資金」が貸与されます。なお、詳細は推薦入試募集要項に掲載します。

---

## IV 出願資格

---

本学へ出願できる者は、次のいずれかに該当する者としてします。

### 1 一般入試

- ① 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」といいます。）を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者

（注）同条第7号により出願を希望する者は、事前に入学資格認定の審査を行います。

※申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により、入学資格の認定を受けようとする者は、平成29年8月25日(金)までに申請するものとします。

ただし、他大学において入学資格の認定を受け、平成30年度大学入試センター試験に出願し、受理された者については、平成30年1月17日(水)までに申請するものとします。

申請書類を郵送する場合は、必ず書留郵便とし封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書し、本学入試課に送付してください。

〈参考〉学校教育法施行規則第150条第7号

大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

※上記出願資格以外に、平成30年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（22、23ページ参照）のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

### 2 特別入試及び私費外国人留学生入試

28ページから41ページを参照してください。

---

## V 選抜方法

---

入学者の選抜は、一般入試及び特別入試並びに私費外国人留学生入試により行います。

本学では、大学入試センター試験の過年度成績は利用しません。

### 1 一般入試

- (1) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の成績、調査書の内容を総合的に判断し、合格者を決定します。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目及び個別学力検査等の教科・科目等は、22、23ページを参照してください。

医学部医学科においては、入学志願者が、募集人員を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合（前期日程は募集人員の約5倍、後期日程は約10倍）に、2段階選抜を実施します。

- (2) 本学が課す大学入試センター試験の受験を要する教科・科目と個別学力検査等の教科・科目等のうち一つでも受験しなかった者は、失格とします。
- (3) 採点・評価基準、合否判定基準は、募集要項に掲載します。
- (4) 入学手続締切後、入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格者を決定し補充することとしますが、欠員補充第2次募集を行うこともあります。

### 2 特別入試及び私費外国人留学生入試

28ページから41ページを参照してください。



日程	学科・課程等	個別試験																配点比率	備考								
		外国語				国語		数学				理科				満点	教科数										
		コミュ英Ⅰ	コミュ英Ⅱ	コミュ英Ⅲ	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅱ	国語総合	国語表現	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	物理基礎	化学基礎					生物基礎	地学基礎						
前期	幼小連携教育コース	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△						400	2	9:4							
前期	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	地歴・公民2科目型	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△					400	2	9:4						
			理科2科目型	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△						400	2	9:4					
		中等教育主免専攻	地歴・公民2科目型	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△						400	2	9:4					
			理科2科目型	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△						400	2	9:4					
	芸術表現コース	3科目型																◎	500		5:5	実技試験は描写表現(27ページ)					
		4科目型																◎	400		6:4	実技試験は発想表現(27ページ)					
	地域デザインコース																◎	400		7:4	総合問題の内容は26ページ						
	経済学科 経営学科 経済法学科		○	○	○	○													100	1	7:1						
	医学科		○	○	○	○					○	○	○	○					80	3	63:40						
	看護学科																	◎	100		65:26						
	数理科学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6						
	物理科学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6						
知能情報システム学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6							
機能物質化学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6							
機械システム工学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6							
電気電子工学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6							
都市工学科		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			100	3	9:6							
応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科		○	○	○	○					○	○	○	○					200	2	6:4							
後期	学校教育課程 幼小連携教育コース		○	○	○	○											◎	200		400	1	10:4					
	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻		○	○	○	○												◎	200		400	1	10:4				
	学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主免専攻		○	○	○	○												◎	200		400	1	10:4				
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース																	◎	300		300		5:3	実技は描写・発想表現から1(27ページ)			
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		○	○	○	○														100		300	1	6:3	その他は問題解決・提案力テスト(26ページ)		
	経済学科 経営学科 経済法学科																		◎	100		100		7:1			
	医学科																				180	100		63:28	出願後に自己推薦書を提出		
	看護学科																				◎	◎		280	59:28	出願後に自己推薦書を提出	
	数理科学科										○	○	○	○	○	○								400	1	6:4	
	物理科学科																							400	1	6:4	
	知能情報システム学科										△	△	△	△	△	△								400	1	6:4	
	機能物質化学科																							400	1	6:4	
	機械システム工学科										○	○	○	○	○	○								400	1	6:4	
	電気電子工学科										△	△	△	△	△	△								400	1	6:4	物理基礎・物理 化学基礎・化学は出願時に選択
	都市工学科																							400	1	6:4	
	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科										○	○	○	○	○									200	1	55:20	

【表の見方】

①◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目、△は複数教科受験可能で、高得点採用の科目。

②配点に( )を付している場合は選択教科。配点比率は大学入試センター試験と個別試験の配点比率を表示。

③大学入試センター試験では「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」は必ず2科目セットでの選択が必要。この場合の科目数はつ合わせて「1科目」として扱う。

④大学入試センター試験の理科における受験パターンをA～Dで表示。Aは基礎2科目、Bは基礎2科目又は専門1科目、Cは基礎2科目及び専門1科目、Dは専門2科目。

⑤大学入試センター試験外国語の英語はリスニングの受験が必須です。

⑥面接は評価が低い場合は不合格とすることがあります。

## ○平成30年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について

### 【地歴・公民】

- (1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合の取扱いについては、「第1解答科目」の得点を採用します。

学部・学科等が指定した科目は、必ず「第1解答科目」で受験してください。

- (2) 学部・学科等が指定する科目を「第1解答科目」で受験せず、「第2解答科目」で受験した場合は、0点として取扱います。

なお、受験が認められていない同一名称を含む科目の組み合わせで2科目を選択した際に、「第1解答科目」を学部・学科等が指定していない科目を受験し、「第2解答科目」で受験した場合は、無資格として取扱い、検定料の一部を返還します。

#### \*参考（取扱い例）

地歴・公民の指定科目	第1解答科目 の受験科目	第2解答科目 の受験科目	得点の取扱い
世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1	世B	地理A	第1解答科目の「世B」を採用
	地理A	世B	地歴・公民の得点は0点
	世A	世B	無資格とします。

### 【理科】

- (1) 「基礎を付した科目」とは、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」の4出題科目のうちから2出題科目を選択することを表します。

- (2) 「基礎を付していない科目」とは、「物理」、「化学」、「生物」及び「地学」を表します。

- (3) 学部・学科等が「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」から2科目と指定する場合に「物理」と「物理基礎」など、同一名称を付した科目を選択することはできません。

- (4) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に「基礎を付していない科目」から2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点を採用します。また、「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合は、高得点を採用します。

### 【数学】

- (1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合は、高得点の科目を採用します。

- (2) 医学部, 理工学部, 農学部については、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

### 【複数教科・科目間の選択にかかる得点の取扱いについて（指定科目数を超えて受験している場合）】

複数教科間の科目採用については、高得点順とします。ただし、地歴・公民及び理科（「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合を除く。）においては、「第1解答科目」を優先します。

## 【外国語】

外国語において英語を受験した者については、リスニングを受験してください。リスニング未受験の者については、失格とします。

(大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。)

筆記試験200点満点、リスニング50点満点を以下のとおり換算し、利用します。

学 部	日 程	筆記試験	リスニング	合 計
教育学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
芸術地域デザイン学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
経済学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
医学部	前 後 期 期	112点	28点	140点
	推 薦 II 佐賀県推薦	128点	32点	160点
理工学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
	後 期 期	120点	30点	150点
	推 薦 II	200点	50点	250点
農学部	前 後 期 期	80点	20点	100点

※リスニングを免除された者については、各学部とも、筆記試験（200点満点）の得点を合計欄の点数に換算し、利用します。

## ○英語外部検定試験の一般入試での利用について

積極的に英語の技能を活用し、主体的に考えを表現することができる学生を求めるとともに、英語のコミュニケーション能力を適切に評価するため、英語外部検定試験の結果を一般入試（前期日程及び後期日程）に利用できます。

### (1) 利用できる検定試験（4技能受験必須）

- ・ 実用英語技能検定（CSE2.0）
- ・ TEAP（4技能）
- ・ GTEC CBT
- ・ TOEFL iBT

### (2) 利用方法

- ・ 検定試験の成績を換算表に基づき、大学入試センター試験（英語）の得点に換算し、大学入試センター試験の成績とみなして合否判定に利用します。
- ・ 大学入試センター試験の得点が、検定試験の換算点より高い場合は、大学入試センター試験を採用します。

### (3) 換算表

実用英語 技能検定 (CSE2.0)	TEAP (4技能)	GTEC CBT	TOEFL iBT	⇒	センター試験 得 点 率
2,150以上	270以上	1,100以上	61以上	⇒	90%
2,000-2,149	235-269	1,030-1,099	52-60	⇒	80%
1,900-1,999	220-234	950-1,029	45-51	⇒	70%

(4) 申請方法

- ・インターネット出願登録時に検定試験の種別及び受験（テスト）ID を登録してください。入力がない場合や間違った情報を登録した場合、登録した検定試験は利用できない場合があります。
- ・受験した検定試験の成績証明書等（写し可）を出願書類送付用封筒に同封してください。
- ・申請できる検定試験の成績は1件です。また、有効期限は、平成28年4月1日以降に受験した検定試験に限ります。
- ・成績証明書等が出願期間内に届かなかった場合は、登録した検定試験は利用できません。

(5) 大学入試センター試験の受験について

- ・英語外部試験の利用を申請した場合においても、大学入試センター試験の英語（リスニングを含む）を受験しなかった場合は失格となります。

## ○平成30年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について

### 【数学】

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学Aは全範囲から出題します。数学Bは「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

### 【総合問題】

文章（英文を含む）や資料（図表，写真，絵，地図など）を題材に，読解力，論理的思考力，分析力，考察力を問います。

### 【問題解決・提案力テスト】

地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を，文章や図表，絵などにより，解答用紙に簡潔にまとめたものについて，企画力，発想力，表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価します。

筆記用具については募集要項に掲載します。

## ○芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について

### 【前期日程】

出願時に「3科目型」を選択した受験者には実技検査（描写表現）,「4科目型」を選択した受験者には実技検査（発想表現）を課します。実技検査（描写表現）では, (1)~(3)のいずれかを出願時に選択します。出願後の変更はできません。

#### ○実技検査（描写表現）

(1) 木炭による石膏デッサン      (2) 鉛筆による石膏デッサン      (3) 水彩による静物着彩

#### ○実技検査（発想表現）

発想・企画プレゼンテーション

○持参道具については, 募集要項に掲載します。

### 【後期日程】

出願時に(1)~(4)のいずれかを選択します。出願後の変更はできません。

#### ○実技検査（描写表現）

(1) 木炭による石膏デッサン      (2) 鉛筆による石膏デッサン      (3) 水彩による静物着彩

#### ○実技検査（発想表現）

(4) 発想・企画プレゼンテーション

○持参道具については, 募集要項に掲載します。

# 平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法〔教育，芸術，経済〕

出願資格・出願要件（全学部）												
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す												
学部	学科・コース等	方式	募集人員	セ試	出願要件	提出書類	段階	試験				
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日	
教育学部	学校教育課程 幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	推薦Ⅰ	5	×	(1) 将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (2) 高等学校の調査書における評定平均値が3.8以上の者	調査書、推薦書		基礎学力試験（外国語）、小論文、面接	12/1	12/11		
	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主専攻	推薦Ⅰ 〔佐賀県枠〕	5	×	(1) 佐賀県内の高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲、資質、適性等を有する者 (3) 高等学校の調査書における評定平均値が4.3以上の者	調査書、推薦書、志望理由書	1次	佐賀県教育委員会による書類審査	11/1～11/8	—	11/17頃	
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	推薦Ⅰ	5	×	学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現や当該分野に関して興味関心がある者、又は優れた経験・知識・技術・実績及び熱意がある者	調査書、推薦書、ポートフォリオ		面接（口頭試問を含む）、実技検査	11/1～11/8	12/1	12/11	
経済学部	経済学科	推薦Ⅰ 〔商業系〕	10	×	(1) 全体の評定平均値が4.3以上の者で、人物、学力について優れる者 (2) 平成29年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、志望理由書、特色加点点申請書（任意）		小論文、面接（口頭試問を含む）	11/1～11/8	12/1	12/11	
	経営学科		20									
	経済学科	推薦Ⅰ 〔普通系〕	10	×								(1) 社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れた全体の評定平均値が4.0以上の者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者 ①成績優秀な者（外国語については評定平均値4.3以上） ②社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者 ③個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し、推薦に値すると思われる者 (2) 平成29年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む
	経営学科		10									
経済法学科		10										

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 調査書・推薦書の評価基準 学業成績、修学状況、部活動、社会活動等を見ます。</p> <p>(2) 小論文の評価基準 出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。</p> <p>(3) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。</p> <p>(4) 面接の評価基準 勉学意欲、特別支援教育への興味・関心等を見ます。</p> <p>(5) 合否判定基準 書類（調査書及び推薦書）、小論文、基礎学力試験、面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<p>・外国語はコミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ</p>
<p>(1) 調査書等の評価基準 学業成績が優秀かどうか、教職を目指す強い意志を持ち、教員になるための基礎的な資質、能力を兼ね備えているかを、調査書、推薦書、志望理由書等により評価します。</p> <p>(2) 小論文の評価基準 資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。</p> <p>(3) 面接の評価基準 志望動機、学習意欲、積極性、コミュニケーション能力について評価し、将来小学校教員になるための適性を備えているかを判断します。</p> <p>(4) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。</p> <p>(5) 合否判定基準 基礎学力試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書、志願者の志望理由書を総合して、合格者を決定します。 佐賀県教育委員会による第1次選考（書類審査）を行い、その選考結果は、平成29年11月17日（金）頃通知します。 第2次選考については、第1次選考合格者に対して小論文、面接及び基礎学力試験を行い、各成績評価と書類審査の評価を総合して合格者を決定します。</p>	<p>・外国語はコミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ</p> <p>・数学は数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数Bで数Bは数列・ベクトル</p>
<p>(1) 調査書、推薦書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、推薦書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 芸術表現を通して地域社会を考え、発想力、コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。加えて、当該分野に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し、当該分野に関する意欲の高さを評価します。</p> <p>(3) 実技検査の採点・評価基準 自らの手による表現力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 静物着彩では、基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。粘土による造形表現では、基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）、面接及び実技検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<p>・実技検査 静物着彩・粘土による造形表現から1 粘土による造形表現は、試験時に手びねり又はロクロ成形を選択 ・入学志願者が募集人員の約4倍を超えた場合は、書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある</p>
<p>(1) 調査書等の採点・評価基準 学習状況、クラブ活動等を見ます。</p> <p>(2) 特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） アドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。</p> <p>(3) 小論文の採点・評価基準 資料を提示の上、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。</p> <p>(4) 面接の採点・評価基準 高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。</p> <p>(5) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。</p>	<p>・商業系（商業高等学校の全科を含む）・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上）</p> <p>・「特色加点」とは志願者の主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度</p> <p>・普通科又はこれに準ずると本学部が認める科</p> <p>・出願要件の②については証明する資料を添付</p> <p>・「特色加点」とは志願者の主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度</p>

# 平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法〔医〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科	方式	募集人員	セ試	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格発表日
医学部	医学科	推薦Ⅱ 〔一般枠〕	20	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成29年4月以降に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書					
		推薦Ⅱ 〔佐賀県枠〕	23	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者又は平成28年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 ②佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者が佐賀県内に平成29年10月1日現在で3年以上在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認） (4) 大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修（2年）を受けることを確約できる者	調査書、推薦書、自己推薦書、志願理由書、確約書	セ試得点、小論文、面接	11/1～11/8	12/2	2/7	
		推薦Ⅱ 〔長崎県枠〕	1	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者又は平成28年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者 ②長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 (4) 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内医療機関等で診療に従事することを確約できる者	調査書、推薦書、自己推薦書					
	看護学科	推薦Ⅰ	20	×	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成29年4月以降に高等学校卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書		小論文、面接	11/1～11/8	12/2	12/11

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「セ試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

※大学入試センター試験を利用する場合、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は失格となる。

学部	学科	方式	募集人員	セ試	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格発表
医学部	医学科	佐賀県推薦入学	2	5-7	(1) 佐賀県が責任をもって推薦できる者（佐賀県による第一次選考合格者） (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内での医療活動に従事し、県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者若しくは平成27年4月以降に卒業を認められた者、又は、高等専門学校第3学年を平成30年3月修了見込みの者若しくは平成27年4月以降に修了した者で、いずれも高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である者（高等学校には、中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む） (4) 最終合格者は、必ず佐賀大学医学部に入学し、卒業後は佐賀県内で医療に貢献することを確約できる者	調査書、所信書、確約書	1次	佐賀県による面接	11/1～11/6	11/11 11/12	11/14
						佐賀県からの推薦書	2次	セ試得点、小論文、面接	11/17～11/22	12/2	2/7

※「セ試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

※大学入試センター試験を利用する場合、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は失格となる。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。</p> <p>(3) 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富 んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価しま す。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。</p> <p>(4) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格 者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価 が低い場合は不合格とすることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記</li> <li>・入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等)による第1次選考を行う場合がある</li> <li>・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】</li> <li>・推薦人数は各高校2人以内</li> </ul> <p>・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とは、子に対して親権を行う者、親権を行う者のないときは、未成年後見人を用いる。(本学部における保護者の定義&lt;学校教育法から引用&gt;)</li> <li>・入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等(学校長推薦書))による第1次選考を行う場合がある</li> <li>・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】</li> <li>・合格者は県内医療活動に従事し、地域医療を担う人材を育成するための佐賀県医師修学資金の貸与を受けられる(5人以内)</li> <li>・佐賀県医師修学資金については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ</li> </ul>
<p>(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。</p> <p>(3) 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富 んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価しま す。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。</p> <p>(4) 合否判定基準 小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記</li> <li>・入学志願者が募集人員の約10倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等(学校長推薦書))による第1次選考を行う場合がある</li> <li>・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】</li> <li>・長崎県医学修学資金については長崎県福祉保健部に問い合わせ</li> </ul> <p>・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集人員には、専門系の科及び総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上)を含む</li> <li>・推薦人数は各高校2人以内</li> </ul>

評価基準	その他要件等
<p>(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また、将来、 佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意 思の有無も評価の基準とします。</p> <p>(3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富 んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等、小論文、面接、大学入試センター試験の成績を総合的に判断して、合 格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀県在住者だけでなく、日本国内の居住者も対象</li> <li>・佐賀県から佐賀大学への推薦人数は6人程度</li> <li>・第1次選考については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ</li> </ul> <p>・佐賀県が行う第一次選考を経て、佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第二次選考を受験する資格を得た者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】</li> </ul>

## 平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法〔理工，農〕

出願資格・出願要件（全学部）																
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す																
学部	学科・コース等	方式	募集人員	七試	出願要件	提出書類	段階	試験								
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日					
理工学部	知能情報システム学科	推薦Ⅰ 〔情報系〕	2	×	学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者	調査書、推薦書	基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野）	11/1 ～11/8	12/1	12/11						
	機能物質化学科	推薦Ⅰ 〔工業系〕	2													
	機械システム工学科		5													
	電気電子工学科		4													
	都市工学科		4													
	物理科学科		2													
	知能情報システム学科	推薦Ⅱ 〔普通系〕	3								5-7	(1) 学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 平成29年3月に高等学校を卒業した者を含む (3) 以下に指定している科目を履修している者 機能物質化学科……数学Ⅲ、化学 その他の学科……数学Ⅲ、物理	七試得点	1/15 ～1/22	—	2/7
	機能物質化学科		10													
	機械システム工学科		10													
	電気電子工学科		4													
都市工学科	10															
農学部	応用生物科学科	推薦Ⅰ 〔専門系〕	3	×	(1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 学習成績概評が㊤として推薦できる者	調査書、推薦書、志望理由書	基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野）	11/1 ～11/8	12/1	12/11						
	生物環境科学科		3													
	生命機能科学科		1													
	応用生物科学科	推薦Ⅰ 〔普通系〕	7								(1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者	小論文、面接（口頭試問を含む）				
	生物環境科学科		12										基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野）			
	生命機能科学科		4											小論文、面接（口頭試問を含む）		

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「七試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

評価基準	その他要件等
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や、情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	・工業系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・機械系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・電気・電子・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・土木・建築系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 調査書及び推薦書の評価基準 1) 調査書 高校での履修状況、修学状況（出席等）、生活態度等について総合的に評価します。 2) 推薦書 「推薦の理由」が理工学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）における「求める学生像」を踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績、調査書及び推薦書を総合して合格者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が大学の定める基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。	・大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等 国 必須【100】 世B、日B、地理B、倫・政経 から1【100】 数I・数A 必須、数II・数B、簿・会、情 から1【300】 物、化、生、地学 から2*【250】 英、独、仏、中、韓 から1【250】 ※物理科学科、機械システム工学科及び都市工学科の志願者は物理の選択が必須
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について、評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・調査書の「9. 備考」欄に学習成績概評が㊦の理由を明記 ・専門系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。ただし、生命機能科学科は1人 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について、評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。

# 平成30年度特別入試（AO入試）出願資格・選抜方法〔教育，芸術〕

学部	学科・コース等	募集人員	七試	出願資格および出願要件	提出書類	試験			
						試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	初等教育主専攻 小中連携教育課程 学校教育コース	10	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成28年4月以降に修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、体育、家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志願理由書、活動実績報告書	小論文、面接（口頭試験を含む）、志望分野に関する適性検査	8/17 ～8/24	9/26 音楽分野は 9/26・27	10/11
	中等教育主専攻 小中連携教育課程 学校教育コース	8	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成28年4月以降に修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者					
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 美術・工芸分野	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志願理由書、ポートフォリオ	志望分野に関する適性検査、面接	8/17 ～8/24	9/26	10/11
	有田セラミック分野 芸術地域デザイン学科 芸術表現コース	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者					
	地域デザインコース 芸術地域デザイン学科	15	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志願理由書、特色加算申請書（任意）	小論文、適性検査、面接			

※「七試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格および出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。</p> <p>(2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。</p> <p>(3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。</p> <p>(4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来小学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。</p> <p>(5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。</p> <p>(6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適性検査内容 英語分野：英語の筆記試験（総合問題、英作文、要約問題） 理数分野：理科分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料（持参）をもとに発表及び質疑応答 音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 体育分野：基礎運動能力（背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げ） 家庭分野：献立作成と調理</li> <li>・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う場合がある</li> </ul>
<p>(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格および出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。</p> <p>(2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。</p> <p>(3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。</p> <p>(4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来中学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。</p> <p>(5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。</p> <p>(6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適性検査内容 英語分野：英語の筆記試験（総合問題、英作文、要約問題） 理数分野：理科分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料（持参）をもとに発表及び質疑応答 音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 保健体育分野：基礎運動能力（背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げから2）及び学校体育教材（バスケットボール、サッカー、バレーボールから2）における運動技能 家庭分野：献立作成と調理 技術分野：与えられたテーマについてレゴブロックを用いて作品をつくり、プレゼンテーション及び質疑応答</li> <li>・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う場合がある</li> </ul>
<p>(1) 調査書、志願理由書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、志願理由書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。</p> <p>(2) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性、発想力等を総合的に評価します。</p> <p>(3) 適性検査の採点・評価基準 教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や分析力、行動力及び考察力を重視した多面的・総合的な採点、評価を行います。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。</li> <li>・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある</li> </ul>
<p>(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。</p> <p>(2) 特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） 本コースのアドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。</p> <p>(3) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性等を総合的に評価します。</p> <p>(4) 小論文の採点基準 読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を総合的に判断します。</p> <p>(5) 適性検査の採点・評価基準 コミュニケーション能力、論理性、表現力等を総合的に評価します。</p> <p>(6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書、特色加点申請書〈申請者のみ〉）、小論文、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適性検査内容 与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答</li> <li>・「特色加点」とは志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度</li> <li>・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及び特色加点申請書（申請者のみ））による第1次選考を行う場合がある</li> </ul>

## 平成30年度特別入試（帰国子女，社会人）出願資格・選抜方法〔医，理工，農〕

学部	学科	方式	募集人員	七試	出願資格および出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	医学科		若干人	×	<p>日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者とします。</p> <p>ただし、平成28年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除く）した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。</p> <p>(1) 学校教育における12年の課程を平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者</p> <p>ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。</p> <p>(2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-Aレベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(6) 国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p>	証明書類	学力検査（数学・理科・外国語）、面接	2/25・26	3/8	
理工学部	全学科		若干人	×	<p>日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者とします。</p> <p>(1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者</p> <p>ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。</p> <p>(2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-Aレベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(6) 国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p>	小論文、面接（口頭試問を含む）	12/1	12/11		
農学部	全学科	若干人								
医学部	看護学科	社会人	若干人	×	<p>平成30年4月1日現在、年齢が満21歳以上であり、社会人として3年以上の経験を有し、看護学を修め、卒業後看護の分野で就業する意思のある者で、次のいずれかに該当する者とします。</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」と言う）を卒業した者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>(3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p> <p>注）社会人の期間には、学校等（予備校、大学、専修学校高等課程・専門課程）の在学期間は含まない</p>	調査書等、成績証明書、志願理由書	小論文、面接	11/1 ～11/8	12/2	12/11

※「七試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 学力検査の教科名・科目名等            数学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B(注)            理科 物基・物、化基・化            外国語 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ            (注) 数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準            医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。</p> <p>(3) 合否判定基準            学力検査、面接、提出書類を総合して最終的な合格者を決定します。            なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p>	
<p>(1) 小論文の採点・評価基準            出題されたテーマについて、解釈力、論理的思考力、表現力及び記述力等を見ます。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準            必要な基礎知識、自己の目標、志望学科に対する意欲を問います。</p> <p>(3) 合否判定基準            書類(成績証明書等)、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。</p>	
<p>(1) 小論文の採点・評価基準            資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準            これまでの社会人としての経験を生かした、看護学科志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通じて評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。            なお、志願理由書及び調査書は面接にあたって参考にします。</p> <p>(3) 合否判定基準            小論文及び面接の結果を総合して、合格者を決定します。            小論文及び面接の配点            小論文200点、面接60点(総得点260点)</p>	

■推薦入試Ⅰ・推薦入試Ⅱ・医学部医学科佐賀県推薦入学の配点

学部, 学科・課程等名			区分		書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	実技検査	その他	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色 加点
			書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文								
教育学部	学校教育課程	幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	100	100	100	/	/	100	/	/	400	/
		小中連携教育コース 初等教育主免専攻 [佐賀県枠]	50	100	150	/	/	200	/	/	500	/
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野		300	/	300	400	/	/	/	/	1000	/
経済学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	2段階評価 (合, 否)	100	2段階評価 (合, 否)	/	/	/	/	/	2段階評価 (合, 否) (注1)	40
	経営学科											20
	全学科	普通科又はこれに準ずると 本学部が認める科推薦										
医学部	医学科(推薦入試Ⅱ)		280	120	120	/	/	720	1240	/		
	医学科(佐賀県推薦入学)		260	120	140	/	/	720	1240	/		
	看護学科		150	200	150	/	/	500	/			
理工学部(推薦入試Ⅰ)	知能情報システム学科	2段階評価	3段階評価 (A, B, C)	3段階評価 (A, B, C)	/	/	3段階評価 (A, B, C) (注2)	/	総合評価 (良, 可, 不可)			
	機能物質化学科											
	機械システム工学科											
	電気電子工学科											
	都市工学科											
理工学部(推薦入試Ⅱ)	物理科学科	2段階評価 (合, 否)	/	/	/	/	/	1000	総合評価 (合, 否)			
	知能情報システム学科											
	機能物質化学科											
	機械システム工学科											
	電気電子工学科											
	都市工学科											
農学部	応用生物科学科	専門系	100	200	/	/	100 (注2)	/	500			
	生物環境科学科											
	生命機能科学科											
	応用生物科学科	普通系								200	100 (注2)	
	生物環境科学科											
	生命機能科学科											

(注1) 特色加点の得点を加味して評価します。

(注2) 基礎学力・学習力テスト

## ■AO入試の配点

学部, 学科・課程等名			区分	書類審査 (調査書, 志願理由書等)	小論文	面接	適性検査	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色加点
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	100	100	150 (注1)	200 (注2)	/	550	/
			中等教育主免専攻							
芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 部	芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 科	芸 術 表 現 コ ー ス	美術・工芸分野	200	/	200 (注3)	400	/	800	/
			有田セラミック分野							
			地域デザインコース	2段階評価 合, 否	300	200	500 (注4)	/	1000	100

(注1) 面接は口頭試問を含みます。

(注2) 活動実績報告書の評価を含みます。

(注3) 面接は適性検査に関する質疑応答を含みます。

(注4) プレゼンテーション資料作成の評価を300点, プレゼンテーション及び質疑応答の評価を200点とします。

## ■特色加点制度について

「特色加点」とは、志願者の積極的なアピールと高等学校入学以降の主体的な活動を喚起することを目的とした佐賀大学の新しい制度です。書類審査、小論文などの合計点（以下、「当初配点」という。）とは別に、志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点します。実績・活動の規模や志望分野との関係性、取り組み状況及び根拠資料の内容等を評価観点とします。志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。これまでに志願者が取り組んできた様々な実績や活動等が申請対象となります。

### 参考

特色加点のイメージ（芸術地域デザイン学部 AO 入試の例）

評価方法	当初配点	+	特色加点申請書  最大100点まで加点
小論文	300		
適性検査	500		
面接	200		
合計点	1000		

### 【芸術地域デザイン学部のこれまでの実績や活動の例】

- 地域創生などに関わる主体的な活動
- 課外活動（部活動や生徒会活動など）における実績や取り組み
- 研究活動（高大連携活動〈SSH, SGH 等を含む〉, 総合的学習等での活動実績）
- 資格・検定試験など外部試験等の実績
- 海外留学経験
- その他主体的な活動